令和7年度　江戸川区立二之江小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	東京都及び江戸川区教育委員会の教育目標や基本方針を受け、人権尊重の精神に基づき、自ら進んで学び、地域社会の一員としての自覚をもち、共生社会の担い手として、互いに信頼・協働できる、健康で心豊かな児童を育成するため次の教育目標を掲げる。「考える子」（重点目標）「助け合う子」「元気な子」		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・子供の笑顔があふれる楽しい学校、教職員が育てることの喜びに満ちた学校、保護者、地域から信頼され愛される学校 ・基礎的・基本的な学力が定着している児童、周囲の人たちと共に生きる心をもつ児童、体力を向上させ、健康管理のできる資質や能力がある児童 ・児童の可能性を引き出し教育に対する情熱を持ち続ける教師、自己を見つめ、常に向上心を持ち続ける教師、組織の一員として、様々な立場の人の思いや願いを受け止め、共に学び続ける教師
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞ ・運動会、展覧会等の学校行事や校内研究を通じて、児童が自尊感情や自己肯定感を高めることができた。さらに教育活動の中で友達のよいところを見つけ、お互いに相手に伝えることができた。 ・通常の学級と特別支援学級（わかくさ学級）との交流を積極的に図り、ともに授業で学ぶ「共同学習」を実施することができた。	課題	＜課題＞ ・各学力調査や東京ベーシックドリルの解答結果により、既習事項の定着が十分ではないことが明らかになった。授業での反復学習や計算力向上のための小テスト実施、放課後補習教室（EDOスク）の活用を推進する。 ・児童は縄跳びや持久走に取り組んではいたが、体力を向上させるまでに至らなかった。体育の授業改善を含め、教員の体力向上についての意識を高めていく必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」の推進と学習規律の徹底	・「誰一人取り残さないための学力向上ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ」の取組への成果と課題を明らかにして、改善案を提案	・学力向上委員会の会議を月１回設定 ・学習規律ｱﾝｹｰﾄを児童、教員に対して年２回実施											
	○算数における基礎・基本の確実な習得及び発展的な学習の導入	・東京ﾍﾞｰｼｯｸﾄﾞﾘﾙ診断ﾃｽﾄや４，５年生の区学力定着度調査、区学力調査（３年～６年）の結果を分析し、既習事項が児童に定着しているかを計測 ・３年～６年の習熟度別授業で、発展的な内容の学習を導入	・東京ﾍﾞｰｼｯｸﾄﾞﾘﾙ診断ﾃｽﾄ７割達成者６０％以上 ・全国学力学習状況調査における質問「授業の内容がよくわかりますか」（国語、算数）に対する肯定的な解答８０％以上											
	○読書科の更なる充実 ・読書を通じた探究的な学習の充実 ・読書科の取組を地域、保護者へ発信	・各学年での図書を使用した探究的な学習への取組 ・学校ホームページへの読書科で取り組んだ成果物の掲載	・各学年学期に１回、図書を使用した探究的な学習を実施 ・学期に１回、学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに読書科で取り組んだ成果物を掲載											
体力の向上	○児童の「体を動かす楽しさ」の体得	・自然と体が動き、「運動するのは楽しい」と児童が実感できるような運動遊びを実践	・年１回、区小教研体育部から講師を招聘し、縄跳び等児童が主体的に取り組める運動遊びを学び、実践											
	○体育の授業力向上 ・教員の体力向上への意識を涵養	・体育の実技研修や授業づくりを学ぶ機会を設定	・年２回「江戸川区 授業の達人」や校内の体育を専門とする教員を講師とし、体育の授業力を向上											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○「すべての子供に特別支援教育を」というスローガンを掲げ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導を実施	・学級、専科経営や授業での指導の手立てにﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの視点を採用	・学期１回の管理職による授業観察で、ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝの視点を取り入れた指導を実施しているか確認											
	○特別支援学級との交流及び共同学習の実施、充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施											
不登校・いじめ対応の充実	○L-Gateの活用	・L-Gateを全学級で実施し、不登校やいじめの兆候を早期に把握	・不登校、いじめの重大事態発生０％											
	○教育相談の強化	・関係諸機関と良好な関係を築き、児童が抱える問題について相談できる体制を構築	・月１回、特別支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心とする特別支援委員会を実施											
地域社会に開かれた学校の実現	○学校ホームページの充実等	・学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの更新	・毎日更新											
	○学校関係者評価の充実	・保護者、地域へのｱﾝｹｰﾄ調査の実施 ・学校公開や学校行事で児童の学習、生活の様子を実際に参観	・ｱﾝｹｰﾄ調査は年度末に1回実施、学校公開や学校行事は都度参観											
特色ある教育の展開	○ライフワークバランスの実現に向けた職場環境の整備	・定時退庁日の設定。 ・副校長補佐やSSS（ｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾄｽﾀｯﾌ）を効率的に活用、教職員の業務軽減。	・月１回定時退庁日「二之江ﾌﾟﾚﾐｱﾑﾃﾞｰ」を設定 ・副校長と一般教員の月当たり時間外労働時間を前年度から削減											
	○SDGｓを基盤とした教育活動の推進	・学習発表会で、各学年学級の発達段階に応じた学習活動をＳＤＧｓの考えを基に発表 ・年間を通して、教育活動全体でSDGｓの考えを児童に伝え、広げる	・年度末の児童ｱﾝｹｰﾄで「SDGｓを意識して学習することができたか」について、ＡＢ評価をあわせて８０％											